

## 課内回覧

# 財政通信 No. 16

平成 22 年 2 月

ご無沙汰しました。m(\_ \_)m 財政家長です。みなさん、年度末を迎え業務多忙のことと思います。気候も雪の日が多く、暦のうえでは春とはいえまだまだ寒さが続きます。体調管理には十分気を付けて下さい。

財政家では、初めての業務である「暫定予算編成」が終わったところです。10 月から平成 22 年度の予算編成に取り組み、1 月に本予算から暫定予算に変更。家員一同、手探り状態ながら全力で取り組みました。みんな本当にご苦労様でした。

それに各家のみなさん、ご協力ありがとうございました。(特に、何度も積算をやり直してくれた担当者のみなさん、お疲れ様でした。)<(\_)>

次は、議会です。みんなもう少しだ！がんばろう！！……えっ、本予算編成の準備開始って……そうですね……だから議会は家長頑張れってか……わかりました\_ | \_ | O

私はといえば、家員の状況を観察し、仕事の進捗状況はもちろん、メンタルヘルスを把握するのも大切な職務のひとつ。じっくり見てみると、みんな小さな喜び(?)を見つけしていました。

家員A 帰り際に北側駐車場から、庁舎を見上げて一言「今日は電気がたくさんついてるなあ」とニヤリ…早上がりを楽しんでいるのか？それとも他家の残業を…？

家員B 連休の中日、昼食に出るとき、日直職員を見て一言「〇〇君たちは、日直かあ」とニヤリ…同じ境遇の人がいるのを楽しんでいるのか？

係長A 金曜日の夜、おもむろに「よ～し、明日は休みだ！」

家員A・B 「本当ですか？」「間に合いますかね？」

係長A 「大丈夫だ！日曜日やっぺよ。俺、明日は用事あんだよ。」

家員A 「そうですか…\_ | \_ | O」

家員B 「嫁には土日、仕事だって言って、明日は…」とニヤリ…バレても知らないぞ！俺は昔痛い目に遭ったことがある(T\_T)

係長B 突然ニヤリ…「んっ、どうした？」「数字がピタツときたんですよ(^\_^)v」そうそう、取りまとめ役は、多角的な計数管理をしているんで、全てがピタツとくると嬉しいものなんです。

ちょっと、暗い？マニアックな？喜びですかね。でも、みんな頑張ってくれて、スケジュールは守れました。感謝です。<(\_)>

さて、暫定予算とは、本予算が成立するまでの「つなぎ予算」として、義務的経費を中心に、公共サービスが滞らないよう、一定期間(今回は6月までの3カ月間)に必要な経費を計上するものです。

義務的経費とは、公債費(借金の返済)、扶助費(社会保障費)、人件費です。暫定予算であっても、必ず支出しなければならないものです。それに市民が日常生活に必要な公共サービスの維持。住民票などの発行、保育所の運営、ゴミの収集・処分や消防・救急の負担金など数えたら切りがありませんが、どれ一つ欠けても、市民に影響を与えてしまうものです。

一方、投資的経費(建設事業など)や政策的経費(市の政策・施策実現のための経費)は、原則として、本予算に計上すべきものです。このため、市民に直接給付するものや、学校経営に影響があるものなどの計上に止めました。今後、第2回市議会定例会(6月議会)への本予算案提出に向けて、政策・施策を見直し、計画や予算案を作り上げていくことになります。

それでは、予算編成物語「暫定編」です。

家 長 「明日、市長の日程が取れたので、今後の方針を調整してくる。課内査定の集計は終わってるよな？」

係 長 「はい。昨日の夜の時点でやっております。」

家 長 「どんな状況だ？」

係 長 「え〜と、財源不足が査定ベースで約12億円ですね。地方交付税などを最新の試算に置き換えて約6億円です。」

家 長 「そうか、要求ベースの19億円からは、かなり圧縮したな。あと借換債などをプラスしても3億は足りないな。」

係 長 「そうですね。それより本予算でいけますかね？タイムリミットがもうすぐです。」

家 長 「そうだな。暫定予算も考えないとな。」

係 長 「そうですね。350億円の予算を数日で判断して下さいとは行かないでしょう。」

家 長 「まあ、明日、いろいろ説明してみるよ。」

とは言ったものの、3月議会は待ってくれない。かといって予算案を提案しないのはあり得ない。(地方自治法でも年度開始前20日までに議会に予算を提出しなければならないと規定されています。)いろいろ考え、本予算と暫定予算の場合のスケジュールを作成し市長の判断を仰ぐことにしました。

家 長 「市長、かくかくしかじかで(省略しますが長時間の説明となりました)予算編成はこのような状況です。本予算の場合、〇日までに決断していただかないと間に合いません。」

市 長 「そうですか、ほかの手法はありませんか？私もこれだけのものを、短時間で判断するのは難しいし、大切な予算には、私の思いも込めたい。」

家 長 「それでは、暫定予算という手法があります。」(暫定予算について説明)

市長「それで進めて下さい。ただし、市民生活などに影響がでるのは本意ではありませんので、その点は注意して下さい。」

家長「わかりました。」

市長の方針を受け、我が家へ

家長「6月までの暫定予算で行くことになった。早速打合せだ。」

係長「暫定ですか。計上基準が重要ですね。」

家長「よ～し、当面の役割分担を発表する。みんなよく聞け！

①暫定期間の所要額算出基準

②計上する経費と見送る経費の切り分け

③暫定予算書の作り方と財務会計システムの対応など

まずこれが必要だ。分担はこれ。至急頼む。」

補佐「分家(一部事務組合・外郭団体)の分担金などの調整もありますね。」

家長「そうだな。オレは暫定予算編成方針を考えてみるから、補佐は所要額算出基準を考えてくれ。特に外部に対するものを。係長たちは経費の切り分けだ。」

補佐「頑張ってみますけど、日程はタイトですね。」

家長「大丈夫。さあ、頑張ろう！」

とは言ってみたものの、前途多難。まずは、職員に「暫定予算」の主旨を理解してもらわねば(おっとその前に我が家の意識統一と)。ネットで情報収集しても、あまりヒットしません。しかし、作業方針を示さなければ、遅れるばかり・・・

家長「△△市の暫定予算をモデルに、龍ヶ崎バージョンを作ろう。作業開始！」

もちろん、手戻りや担当家と何度も調整することもありましたが、何とか完了。市長査定の日がきました。

家長「市長、かくかくしかじかで(省略しますが2日間の市長査定となりました)暫定予算はこのようになりました。」

市長「××についてだけ宿題とします。もう少し考えたい。もちろん、来週には結論を出します。そのほかについては進めて下さい。」

その後は、再調整、予算書作成、資料作成と先日までバタバタ・・・間に合ったあ(^\_^)v  
(暫定予算の概要はホームページにUPしてあります。ご覧下さい。)

平成22年度は、新たに龍ヶ崎丸の舵取りを託された市長の実質的なスタートとなります。龍ヶ崎市に活気を、元気を取り戻したいという市長の思い、これは市民から託されたものでもありません。我々はその実現に向けて努力しなければなりません。

一方で、燃料(財源)に余裕のない龍ヶ崎丸で、厳しい経済情勢などの荒波を乗り切らなければならぬ現実にも直面しています。我々職員が率先して、元気を出していきましょう！

財政通信もいつの間にか 16 回を数えることとなりました。本音を言うと、こんなに続くとは思っていませんでした。(^^;)そろそろマンネリとのご指摘もチラホラ……。

より幅広い視点で「財政の現場」をお伝えするためには、書き手を交代制にすることも妙案かなと勝手に考えています(おっと、これには家内会議が必要だ。家員が抵抗勢力にならないように、よ〜く根回し、打合せ……と、一杯飲むかあ〜)

次号では、平成 22 年度の本予算と財政の状況などについてお知らせしたいと思います。  
ご期待くださいね(^^)/